教育部会用自己点検・評価報告書（様式１）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：外国語第Ｉ（英語）教育部会
部会長名：加藤雅之
作成者名：加藤雅之

概要（2000 字）

１．組織・運営について

外国語第Ｉ教育部会の企画運営に関しては、下記の組織を通じて行なった。
(1) 幹事会（月 1～2 回、随時開催）
部会長：　加藤雅之（全般、非常勤講師への対応）
幹事：　島津厚久（教科書、予算）
幹事：　大和知史（時間割）
幹事：　ティム・グリア（グローバル英語コース）
(2) 英語教育企画委員会（国際コミュニケーションセンターに設置の委員会、毎月第２金曜日に開催）
(3) 英語教育部会（毎月第３金曜日に開催）

部会構成は以下の通り：

国際コミュニケーションセンター	12 名（専任 9 名、特任 2 名、特命 1 名）
国際文化学部	18 名（専任 17 名、特任 1 名）
文学部	1 名（特任 1 名）
海事科学部	1 名（特任 1 名）
非常勤講師	48 名

２．実施状況について
（１）新カリキュラムの導入

新入生向けの新カリキュラムに基づき、ベーシック科目として
English Literacy
English Communication
Productive English
Autonomous English を開講した。
2 年生向けには従来の英語リーディング III、オーラル III を引き続き開講した。

（２）グローバル英語コースの展開と、新年度からの特別コース
グローバル人材育成推進事業の一環として行ってきたグローバル英語コース（GEC）は４期目を迎え、最後の学生選抜・指導を行った。GEC コースは来年度前期で終了し、新たに、これまでの成果を引き継ぎ、全学的に拡大し、「英語特別コース」として総合的な英語スキルの育成を目指した、より高度なレベルの指導を行うこととした。

（３）特別編成クラス
理系学部では、今年度も継続して「英語リーディング II」においても実施した。なお、「英語特別クラス」の発足に伴い、特別編成クラスは解消することとした。

（４）英語部会の FD 等の取り組み

外国語第Ｉ教育部会では、今年度、国際コミュニケーションセンター主催の公開外国語教育セミナーや外国語授業ピアレビューに参加するかたちで、FD 活動を行なった。
また、平成 29 年 3 月 6 日開催の外国語科目担当教員ガイダンスの分科会において、ＦＤ活動の一環として、授業紹介を行い、意見交換を行った。

第 23 回外国語教育セミナー
日時　2017 年 3 月 6 日　（月）12:00-13:00
会場　神戸大学鶴甲第１キャンパスＤ棟Ｄ615
講師　石川慎一郎 先生（神戸大学）
題目　大学教員のための「英語講義法」入門
企画　国際コミュニケーションセンター　システム研究部門

第 22 回外国語教育セミナー
日時　2017 年 3 月 6 日　（月）10:00-11:30
会場　神戸大学鶴甲第１キャンパスＤ棟Ｄ615
講師　Lori Zenuk-Nishide 先生（神戸市外国語大学）
題目　National Model United Nations: Preparation, Participation and Outcomes
企画　国際コミュニケーションセンター　学術交流研究部門・システム研究部門　共催

第 21 回外国語教育セミナー
日時　2017 年 2 月 10 日　（金）14:00-16:00
会場　神戸大学鶴甲第１キャンパスＤ棟Ｄ615
講師　村上正行 先生（京都外国語大学）
題目　大学における外国語教育のアクティブラーニングと学習環境
企画　国際コミュニケーションセンター　メディア研究部門

第 20 回外国語教育セミナー
日時　2016 年 12 月 9 日　（火）8:50～11:00
会場　神戸大学鶴甲第１キャンパスＤ棟Ｄ615（CALL 教室）
企画　国際コミュニケーションセンター　コンテンツ研究部門
内容
第１部　センター教員ピアレビュー（8:50～9:50）
　　報告者　木原准教授（英語）　保田准教授（英語）　西出講師（ドイツ語）
第２部　講演会（9:50～11:00）
　　講師　南山大学　太田達也先生
　　演題　題目「学習者中心の外国語教育について考える」

（５）今年度の工夫・改善点
教員のための「授業の手引き」を作成して各教員に配布した。これは、英語の授業を行う上で最低必要な事項（教育目標などの理念的な事項から、年間スケジュール、シラバスの書き方、休講の申請方法、教科書の選択基準、試験制度などの日々教員が直面する問題に対して、これまで部会が蓄積してきたノウハウをまとめあげたものである。
多読用 Graded Readers デジタル教材(Macmillan)を購入した。

３．課題について
新カリキュラムの中の Autonomous English では英語スキルの向上と合わせて、自律的学習態度の育成を目標としている。これは、英語学習を教室内での勉強としてだけではなく、また、大学という場での知識の獲得ではなく、生涯にわたって、英語を使い続け、持続的な向上を目指すための、スモールステップとして設定したものである。ネ

ット環境があれば、自宅でも通学電車の中でも学習ができるというメリットがある反面、非対面で行われるため、目標設定を安易にしてしまう傾向も見られた。来年度は、さらに多くの学生がこの新科目を受講することになるため、今年度の問題点を踏まえ、さらに充実したものにしていきたいと考える。 　各学部ごとに必修科目数や配当学年が異なっており、学部ごとのニーズに対応できている反面、大学全体の英語教育としての一体性が薄れてきているようにも感じられる。必ずしも、全体に一律なカリキュラムが必ずしもベストではないものの、ある程度ベースラインをそろえることを今後の課題としたい。

教育部会用自己点検・評価シート（様式１）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上） リーディング系科目ではニュース、小説、エッセイなど多様なジャンルの文章を読む工夫がなされていいた。オーラル系科目では、さまざまな AV 媒体を活用し、英語音声に親しませるとともに、スピーチやプレゼンテーションなどの制作物（プロダクト）を生成するなど、アクティブ・ラーニングを意識した指導方法が多く取られていた。また、音声学、コーパス言語学や認知言語学的観点から最新の研究成果を取りいれた指導も多くなされていた。
根拠資料 ・シラバス ・授業中の配付教材 ・学習管理システム(BEEF)上における掲示、参考情報

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上） 各クラス、平均 40 名弱の人数配分がなされており、その中でタスクやアクティビティに応じて、ペアやグループなどの少人数編成が取りいれられており、多様な授業形態が展開されている。また、文法説明や、DVD の視聴、学生の発表、発表に対するフィードバックの活用など、外国語学習のさまざまな局面で、それぞれの目的に最適化された授業形態が選択されている。
根拠資料 ・シラバス ・授業記録

・配布物

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上） ほぼすべての授業で復習および準備学習の指示が的確になされているのが確認された。また、BEEF 導入の 2 年目にあたり、徐々に活用される授業も増えている。単に、宿題・予習を義務化するというのではなく、自律的学習の一環としてとらえる観点が不可欠であると思われる。
根拠資料 ・シラバス ・BEEF の活用

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 本部会では、基本的な部分は全員で協議した共通シラバスとして提示した上で、各教員の研究・教育背景に応じた調整を行っており、結果的にさまざまなアプローチと多様なコンテンツがダイナミックなバランスをとって共存している。
根拠資料 ・シラバス

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 各授業でオフィスアワーを設ける等、教員個人で対応するとともに、国際コミュニケーションで行っているランゲージ・ハブ、KALCS、e-Learning 教材などを通じた教室外活動への参加を促している。また、リーディング III とオーラル III については、再履修者専用クラスを設けて、きめ細かい指導を行った。（来年度はすべて新カリキュラムに移行するがリーディング III 用の再履修は存続の予定）
根拠資料 ・シラバス ・外国語教育ハンドブック

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） シラバスの段階で、成績基準の策定と公表は義務付けられている。外国語教科の特性上、期末テストだけの成績ではなく、授業への取り組み、小テスト、プレゼンテーション、ポスター発表、筆記試験など、さまざまな評価基準が組み合わされている。

根拠資料 ・シラバス ・授業での説明 ・BEEF での説明

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 部会長および幹事が、各教員のシラバスをチェックし、厳格な成績評価基準や、多様な評価方法について客観性・厳格性が保たれていることを確認しており、定例部会でも機会を設けて、これらの重要性について注意を喚起している。
根拠資料 ・シラバス ・授業での説明 ・部会議事録

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②:　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上） 学生による総合評価を基準にした回答ではほぼ、以上の数値を根拠にして学習成果が上がっていることが確認できた。それ意外にも授業の中で独自にアンケートを実施している教員もいる。振り返りアンケートによる数値を使用する場合は、回答者数があまりに少ない場合の信頼性の問題があり、この基準を正確にクリアしたとみなすことは非常に困難と言わざるを得ない。
根拠資料 ・授業振り返りアンケート

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 国際コミュニケーションセンターでは教室外の学習環境として CALL 自習室や、ランゲージ・ハブ、KALCS、e-Learning 教材などを整備しており、初回のガイダンスで詳しく説明を行っている。
根拠資料 ・外国語教育ハンドブック

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 本部会では、第 1 回目の授業で「外国語教育ハンドブック」を利用した授業ガイダンスが実施されており、英語のカリキュラム、GEC コース、授業紹介、外部テストサポート、ハブ、CALL 自習室、KALCS 案内など、神戸大学における外国語学習についての包括的な情報を伝えている。
根拠資料 ・外国語教育ハンドブック

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 部会全体としては、ハブ室での学習相談、CALL 自習室、KALCS などの授業外での外国語サポートを行っている。また、教員個人もオフィスアワーやメールでの学習相談、支援を行っている。特別な支援を必要とする学生に対する全体的な対応は古語の検討課題である。
根拠資料 ・シラバス ・外国語教育ハンドブック